

質問

30代後半の男性です。男性型脱毛症の経口内服治療薬「フィナステリド」が薄毛によく効くと耳にします。育毛関連の書籍で調べましたが、薄毛は遺伝的要素が強く、子づくりの時期に治療薬を服用すると、生まれてくる子どもにも悪影響が及ぶとの記述がありました。治療薬のリスクについて教えてください。

治療薬の効果とリスク



答え

男性型脱毛症は、遺伝的素因を持つ思春期以降の男性に発症し、前頭・頭頂部の毛髪が細く短くなります。額の生え際が後退して頭頂部が脱毛し、最終的には前頭・頭頂部の毛髪がなくなりま

す。頭髪は一本ごとに固有の毛周期を持ち、毛が伸びる「成長期」(3~7年)、伸びが止まり毛包が短縮する「退行期」(2~3週)、毛髪新生への準備をする「休止期」(約3カ月)を経て、また「成長期」に入ります。男性型脱毛症では、前頭・頭頂部の毛髪の「成長期」が短縮

男性型脱毛症



久保 宜明教授

徳島大学大学院ヘルスバイサイエンス研究部皮膚科学分野  
(徳島市蔵本町3)

が増殖、分化することによって作られます。男性型脱毛症の前頭・頭頂部の毛髪では、男性ホルモンは毛母細胞近くの「毛乳頭細胞」に作用し、毛母細胞へ増殖抑制シグナルを伝えます。男性ホルモンは、毛乳頭細胞

し、「休止期」にどまる毛包が増加します。男性型脱毛症の発症には、男性ホルモン(テストステロン)が関与しています。毛は、根元にある「毛母細胞」

肝機能障害の人は避けて

肝機能障害(性欲減退・勃起不全)について、海外では少しリスクを上げるといって一部の報告もありますが、日本では、ここに挙げた有効率の報告や最近の3千人を超える報告でも、有意な肝機能障害はみられていません。内服中、精子の問題はなく、精液を介して女性の体内に吸収される量も微量で、子づくりにも心配はありません。ただし、この薬は肝臓で代謝されますので、通常量の飲酒は構いませんが、肝機能障害のある人は避けた方が無難です。

6カ月~1年で効果がみられることが多く、日本人で有効率(やや有効以上)は、1年で約60%、3年で約80%であり、やや有効以上に維持(進行なし)を加えると3年で98%と報告されています。ただし、内服を中止後3~6カ月で脱毛が進行するので、継続して内服しなければなりません。

5αリダクターゼは2種類あり、毛乳頭細胞と前立腺ではII型、主要臓器(筋肉、肝臓他)ではI型が主に働いています。フィナステリドはI型を阻害せず、II型を選択的に阻害しますので、全身への影響はほとんどありません。

徳島大学病院では一般診療とは別に月2回(第1、3火曜日の午後3時~4時半)、男性型脱毛症外来を行っています。予約や紹介状は不要で、基本的に3カ月処方をしていきます。多くの皮膚科クリニックでも処方可能ですので、最寄りの皮膚科専門医へもご相談ください。